



SANJO ROTARY CLUB

三條ロータリークラブ

週報 No. 12

2019.10.2(No.3021)

楽しいロータリーでつながろう

第2560地区ガバナー／大谷 光夫
 会 長／若槻八十彦
 会長エレクト／野崎喜一郎(クラブ奉仕A)
 副 会 長／小出子恵出
 幹 事／柳 取 崇 之
 S A A／中 條 克 俊
 会 計／西 山 徳 芳
 直 前 会 長／松 永 一 義
 会長ノミニ／明田川賢一(クラブ奉仕B)
 例会日／毎週水曜日12:30～
 例会場及び事務局／
 三條市旭町2-5-10 三條信用金庫本店内
 例会場／TEL 34-3311
 事務局／TEL 35-3477 FAX 32-7095
 E-mail : sanjo-rc@cpost.plala.or.jp
 http://www.soho-net.ne.jp/~rotary/
 (～はshiftを押しながら“へ”のキーを
 押してください)

- 本日の出席会員数:58名中41名
- 先々週出席率:56.90%

【ヴィジター】

・米山記念奨学生 ゴーグエンチー チュン君

【先週のメイクアップ】

[9.26] 三條RACへ

- ・若槻八十彦さん、柳取崇之さん、
- ・船越良則さん、荻根澤隆雄さん

[9.27] 吉田RCへ

- ・加藤紋次郎さん

[9.30] 三條南RCへ

- ・中沢真幸さん、五十嵐晋三さん、
- ・小越憲泰さん、山田富義さん、
- ・吉井直樹さん、斎藤弘文さん、
- ・中村和彦さん、加藤紋次郎さん、
- ・丸山行彦さん、木村文夫さん、
- ・西山徳芳さん

[10.1] 三條北RCへ

- ・加藤紋次郎さん、伊藤寛一さん



2019～2020年度国際ロータリーのテーマ



会長挨拶

若槻八十彦 会長



皆さん、こんにちは。

早いもので、とうとう10月になってしまいました。クールビズも終わってしまいましたが、今日も気温が31度まで上がるようです。

先ほど出がけに、近所で蝉が鳴き始めて、ビックリしました。ツクツクボウシでした。調べてみたら、普通なら8月上旬～9月中旬までと書いてありました。異常気象のせいで、夏が来たと間違えたのでしょうか？

10月はロータリーの6つの重点分野のひとつである「経済と地域社会の発展」月間であります。そして、「米山記念奨学」月間でもあります。

この5日の土曜日には新井ロータリークラブの創立60周年記念式典が行われます。来週8日の火曜日には「地区大会記念親睦ゴルフ大会」が行われ、26日、27日には「地区大会」が開催されます。今月もあっという間に過ぎてしまうような、そんな気がしております。

消費税がまた上り、対応に苦慮しているという話を耳にします。

あまり良い話がない中で、唯一勇気づけてくれているのが、ラグビー日本代表の快進撃です。次のサモア戦も勝利してくれることに期待いたしましょう。

ロータリー日本財団より、明田川会員と小越会員に「マルチプル・ポール・ハリス・フェローピン」が届いております。この賞は、ロータリー財団への寄付額が1,000ドルに達する毎に送られます。おそらくお二人共、何個目かのピンになろうかと思えます。ご協力に感謝申し上げます。

本日の卓話は「米山記念奨学生」のゴーグエンチー チュン君からお話をさせていただきます。また、チュン君には後ほど奨学金をお渡しいたします。

今日は第1例会で、もりだくさんの内容ですので、以上で会長あいさつを終わります。

幹事報告



柳取崇之 幹事

◎国際ロータリー日本事務局より

「10月ロータリーレートのご案内」

10月1日より 1ドル=108円（現行106円）

◎大谷ガバナー事務所より

「ガバナー月信10月号発行のお知らせ」

◎地区事務所より

「国際ロータリー第2560地区奨学生募集ポスター」が届いております。

奨学生応募説明会

日 時 12月7日(土) 13:00~15:00

会 場 万代シルバーホテル

ニコニコBOX

若槻八十彦会長

米山記念奨学生ゴーグエンチー チュン君の本日の卓話に期待して。

中村信一さん

チュン君、卓話ありがとうございます。研究に論文に頑張ってください。

五十嵐博宣さん

1ヶ月ぶりの例会です。よろしくお祈りします。

相場弘介さん

今月は米山月間です。皆様のご協力、宜しくお願い致します。

チュン君、今日は卓話宜しくお願いします。

菊池 渉さん

冬衣に替えたたん、暑い日が続きます。でもドレス・コードは暦通りにした方が正解と信じて、衣替えしました。

樺山 仁さん

別年になく暑い日となりました。

本日は米山月間です。本日の卓話に期待して。

野崎喜一郎さん

「アッ」というまに今年もあと3ヶ月です。本当に、時の過ぎるのは早いですね。

渡辺良一さん

“夏バテ”は、秋の初めにくると人に聞いたことがあります。皆様御自愛下さい。

チュン君、卓話楽しみにしています。

斎藤弘文さん

昨夜、あるスナックの開店祝に招待され楽しんで来ました。丸山さん、ありがとう御座居ます。

渡辺勝利さん

米山月間 奨学生卓話ありがとうございます。

久しぶりの例会出席です。

吉井直樹さん

今年も残り3ヶ月、ラストスパートです。良い年越を迎えたいです。寒くなってきました。体調に気をつけましょう。

本日チュン君、宜しくお願いします。

荻根澤隆雄さん

米山記念奨学生 ゴーグエンチー チュン君、ようこそ！

落合孝夫さん

ネクタイを忘れてしまいました。すみません。クールビズをやめるにはまだ早い、暑い日が続いています。次の台風が過ぎると気温もグッと下がるでしょうか？

船越良則さん、小林吾郎さん、柳取崇之さん、

松永一義さん、山田富義さん、石黒良行さん、

小林卓哉さん、小越憲泰さん、明田川賢一さん、

石橋育於さん、杉山幸英さん、米山智哉さん

米山記念奨学生 チュン君を歓迎致します。本日は卓話ありがとうございます。

10月2日分 ￥ 26,000

今年度累計 ￥ 367,100

米山月間

「米山記念奨学生卓話」

米山記念奨学生

ゴー グエン チュー 君

氏名：NGO NGUYEN CHI TRUNG

(ゴー グエン チュー チュン)

出身：ベトナム、ヴンタウ市

所属：長岡技術科学大学

技術科学イノベーション専攻

専門：電気電子情報

趣味：新しい知識を勉強すること

日本のアニメ、まんが

海が大好き



趣味は……研究は大変なことなので、頭も疲れやすいし、その時、新しいことを勉強すると、頭もリセットされて、効率も改善できます。新しい知識と言っても、研究みたいに難しいことではなく、自分が今まで、触れたことがない分野、文学、歴史などを勉強するぐらいです。

他の趣味は例えば……これは自分が日本に来る前にすごい動機をくれました。

《出身地のベトナム》

面積：33万㎡

国境：東は海、西はラオス
とカンボディア、
北は中国

人口：9554万人

首都：ハノイ

GDP：一人当たり4012ドル

歴史：戦争

紀元前-1847：中国と
戦い、最大1000年支
配された。

1847-1945：フランス

1945-1975：アメリカ



熱帯気候でもあるし、海も近いので、料理も豊かである

人口は日本とほぼ同じ、GDPは日本の10分の1

《ヴンタウ市の特徴》

気候：平均温度 27℃

海の都市

ホーチミン市から120km

観光と石油

ホーチミンから120 km、つまり車で2時間位なので、休日はホーチミンから多くの人に来て、ストレスの一週間後、ゆっくり休んでいます。



《学歴》

■ベトナム

2006-2010：ヴンタウ市中学校
県の物理コンテスト受賞

2010-2013：ホーチミン市 High School for the Gifted
ベトナム南方ランク1の高等学校

2013-2016：ホーチミン市工科大学
長岡技術科学大学ツイニングプログラム

■日本

2016-現在：長岡技術科学大学

2016-2018：学部卒業

2018-現在：修士課程

《ベトナムから長岡技大に編入まで》



世の中の人、何か目的で生きている。そこでは、自分が立つゴールをゲットするためには、色々な要素が必要となります。ある人は生まれた時から能力でそれをゲットし、周りの人から羨まれたんです。ある人は努力を重ねて続けて、最後にゴールできました。

もうちょっと具体的に言いますと、学生と言えはその任務、人生は勉強になります。勉強はテストでいい点数がもらえることと、入学試験のとき、トップの高等学校に入るためです。

才能を持っている人はそれを発揮できるように頑張るべき、持っていない方はその10倍100倍努力が必要となります。

問題はここです。中学の頃の私は、努力をあまりせずにいい点数がもらえるし、クラスの中でもトップであった。努力する必要があるのか疑問を持ってしまい、それ以上に能力を発揮しても、ゴール出来そうなものが見えない状況、やる気もしないのではないのでしょうか。

さらに、高校入学試験では、最低の努力でベトナム南方ランケーの高等学校を合格し、入学した時点では、自分は才能を持っていると思ってしまい、無意識に努力の大切さを忘れてしまいました。

でも、誰もが望んだ高等学校に入学出来たから、

その考え方に問題があると気付きませんでした。

しかし、高校に入ってから話が変わってきました。1年目、2年目連続で、クラスの中で一番成績が悪かった人になった。その上、3年の時、クラスの担当教授から大学に落ちる可能性があると言われました。このとき、自分が持っている能力は限界に届いた。もっと正しい方を言いますと、中学時代に得た能力は自分が成長しないせいで、足りなくなる。そのとき、気付いたのは能力が生まれたての才能ゆえに、毎日の改善も必要でしたが、どうやって改善できるのか全然わからなかった。

中学校の時つい忘れてしまった努力を思い出しました。努力をすることで、もっと知識を増やせば、能力アップ出来るんじゃないかと思いました。ですが、もっと努力するのは正しいと分かっている、なかなかやる気が出ない。周りにはもうそろそろゲットするのに、自分だけ今更頑張っても、間に合うか、みんなを追いかけられるのかと悩んで、辞めるまで残り一歩だけでした。

その時よかったのは、大学入学試験のチャンスをまだ逃さなくて、自分でも諦めるわけにはいかないと考えたため、もう一回自分がこの分野を選んだ理由を思いつき、動機をざっと見つけました。

私が動機、努力、能力、そしてちょっとの運で、大学に入れました。そこにとどまらず、4年前には想像できなかった、この自分の人生が大きく変わる機会、日本へ留学するチャンスを生んでもらえました。

自分の人生では能力のそばに、さらに3つの大事な要素が増えました。

自分の能力を改善する努力、遅くとも一步一步ずつ進めるべき。努力を生み出す動機。動機なしの努力は単純に拷問、そして、努力を尽くした後、身に付けられた能力が今度自分を改善する動機となる。

そして、運は見えない、座れない、そもそも存在しないかもしれないが、自分がもっとも気付かないときに、人生が変わる機会をもたらしてくれる。もし、私が自分の失敗に気付いたのが大学試験の後であれば、ずっと後悔の中で自分を責めていただろう。

努力は頑張ること、つまり自分が頑張らないといけない。能力は一人一人が持っている質であり、他人の能力を自分のものを作ることができない。

そして、動機。違う人は違う人生を生きているため、同じ物事でも考え方、とらえ方が違う。

最後に運。確かに運は外部からもらうんですが、この時点では運は自分に成り行きで来るとしか見えない、運の正体が分からない。

この4要素はどちらも自分に関係する。この考え

方だと、得られた成果とその過程は全部自分のおかげと同じ意味。確かに、成果を得るためには、家族、先生、友達も大きく影響がある。家族は自分を応援し、その応援で自分が成果出せるようになる。そして、ベトナムでは、家族、先生、友達の力を大事にしないといけない授業は教えてくれるでしょうが、自分がもらえたから感謝することであり、その関係を大事にすることの意味には含まない。これは大きな間違い。

しかし、その応援を大事にしていますが、無意識、自分の中では応援とか自分の努力を比べないレベルとなって、原因-成果関係に応援はまだ成り立っていない。

なぜこんな勘違いが発生するかと言いますと、学生を判定するのはテストのシステムだからでした。決して、テストのシステムが間違っているわけでもなく、しかし、テストこそが学生がくしてある人間関係を見えない理由となっている。

テストとテストを受ける過程ではもうすでに、規格化されました。勉強なら、本に記載されている知識が基本。先生はsupportの役割だけ。テストだったら、こんな時期はこんな内容、点数のA,B,Cで学生の能力を判定する。学生が自分の人生をちゃんとゴールできるかどうか判断したい場合は、先生の意見、周りの人の意見の聞くことじゃなくて、テスト見ればわかる。

当時点では、成果原因関係人と人ではなく、人と道具であった。

しかし大学、特に大学院に入ってから、テストの意味がだんだんなくなり、自分は研究して、その研究を判断するのが社会である。研究、自分は能力、努力、興味を使って、世の中に存在する問題を解決しようとしている。研究成果を公開する際には今度は社会が裁判となる。なぜなら、自分は社会に存在する問題を解決しようとしたら、解決できたかどうかを判断する社会であるべき。

社会はその研究が実用性と必要性があると判断するとともに、実現者も評価される。

テストのように規格化され、当然のようなものではなく、違う社会、違うニーズがあって、それを勉強、理解する必要がある。

もうちょっと詳しく言いますと、社会とテストの違いは次のようにまとめられる。

- ・社会は適切度で物事を判定する時のランクはきちんと区別しないわりに、テストは正しさを判定し、A, B, Cなどランクで受験生を評価する
- ・社会の多くは可変なパラメータで支配される、例えば人のニーズ、機嫌、礼儀などに大きく依存する。

- ・テストは規格化され、フォーマット通りである。公式、原理、性質など暗記すれば、うまくいくはず。

最初にもテストのとらえかたで無理やりやってみました。うまくいかなかった、ですけど中学時代と違って、失敗、落ち込む前に、指導教員と2人の先輩が助けてくれました。

そこではもう一つ要素を思いつきました。それは縁である。やっぱり人と人之间には縁が必要である。もし努力、能力、動機は、時間が経って自分が磨けるものであれば、運と縁は捕まえるべくものである。確かに運と縁がいつ来る、どういう形で来るか自分で起こせないですけども、努力、能力、動機を向上することで、そういうチャンス逃さないでちゃんと捕まえられるんじゃないでしょうか。

何と言っても人間関係は運や縁と違って、ちゃんと構築できるものですから。

最後に、過去を一回見直した時、自分にこういう出会いや機会がなければ、今この場で、この日本にいないかもしれない。

中学の時：知識を教えてくれて、目標を立てくれた先生方。一生頑張った友達。

高校の時：いつも応援してくれる家族。

大 学：ツイニングプログラムを教えてくれた母。
日本語を教えてくれた先生方

長岡技大-学部：現指導教員のご指導、
2人の先輩のお世話

長岡技大-修士：三条ロータリークラブの皆様、
特に中村さん

公益財団法人 ローター日本財団より
マルチプル・ポール・ハリス・フェローピン授与
明田川 賢一 会員 小越 憲泰 会員



米山記念奨学生 ゴー グエン チュー チュン君へ
奨学金の授与

次週例会 10月16日 「会員卓話」 矢吹信太郎 会員

次々週例会 10月23日 「外部卓話」 新潟県立三条商業高等学校
校長 磯辺一幸 様

